

# 安曇野市 農業委員会だより



豊科南小学校稲刈りの様子 (R5.10.2 撮影)

### ● 主な内容 ●

- ・ 豊科南小学校稲刈り ..... 表紙
- ・ 地域委員会活動 (明科) ..... 2
- ・ 山葵の海外輸出 ..... 3
- ・ がんばる農業者 ..... 4・5
- ・ 農業委員会お知らせ ..... 6・7
- ・ ドローンの水稻直播きその後 ..... 7
- ・ 私のおすすめ ..... 8
- ・ 旬の一句・一首 ..... 8
- ・ 編集後記 ..... 8

発行日 / 令和5年12月20日(水)

編集と発行 / 安曇野市農業委員会

安曇野市豊科 6000 番地

tel 0263(71)2497

**農業委員会事務局ホームページアドレス**

<http://www.city.azumino.nagano.jp/soshiki/49/>

soshiki/49/

**申請書、届出書のダウンロードができます。**

# 農業委員会活動(明科地域委員会)の紹介

今回から各地域の農業委員会の活動をシリーズでご紹介します。

農業委員会は合併前の旧町村単位で地域委員会を設けています。現在、明科地域委員会は農業委員3名、農地利用最適化推進委員4名で構成されています。月例会議では月末の農業委員会定例会議に先立ち、明科地域内で申請されている農地法許認可案件の検討を行います。地域の実情に詳しい委員が申請案件を、現地確認を含め事前に地域で慎重に検討審議し、その上で定例会議に申請案件を諮っています。

地域委員会には地域農業の推進役としての重要な役割があります。月例会議では農政課など関係機関等から提出される地域農業の様々な課題を地域の視点で検討し、意見を集約して、時には積極的な意見も提案しています。

また、毎年8月には市全域で農地パトロールを行なっています。明科地域では各委員が担当地域を分担して農地の利用状況を調査しています。

今、全国的に荒廃農地がますます拡大し深刻な社会問題になっています。明科地域は東に山間部を控え、安曇野市内でも特に多くの荒廃農地を抱



再生された天王原(令和5年6月)



天王原再生作業状況(平成25年12月)

えています。すでに農地として復元することが困難な所もありますが、できれば農地として復元したい場所も数多くあります。

地域委員会では少しでもこのような農地荒廃化の危機的な状況を食い止めようと、平成25年度に地域の農業関係組織に呼びかけ農業委員が中心となって「明科地域の農業を守る会」(以下、守る会と言います)を結成しました。守る会は当初から実践的な組織として、自ら荒廃農地を解消し農地として復活させることを目的としていました。すでにこの農業委員会だよりでも天王原の再生状況について何度かご紹介させていただきました(17、19号他農業委員会だよりを参照)。5年に渡る再生活動の結果、天王原は現在、12ヘクタールに及ぶワイン用ブドウの生産地となっています。

守る会の荒廃農地の解消活動は、現在は明科地域の他地区での活動に移行しています。対象は明科から松本市四賀地域へ向かう県道の会田川沿いに位置する大足地区です。地元ではブス平と呼ばれ、およそ6ヘクタールの広さです。かつては水田と畑地として耕作されていましたが、今では大部分が耕作されない状態で、



草を食む羊たち(現在の様子)

このまま放置すれば、将来荒廃農地化が予想されていました。こうした状況を見て、地区出身の農地利用最適化推進委員の呼びかけから大足地区の人々の協力を得て、大型のヒツジ、肉用種のサフォーク種を飼育する牧場として再生することを目指しています。

守る会では生産者の営農活動の支援をすることで農地の荒廃化を防ぎ優良な牧場として再生する側面支援ができればと願っています。

荒廃農地対策は多くの困難を伴う、先の長い活動です。明科地域委員会では地域農業の推進役として、地域の大きな課題である荒廃農地問題への取り組みを継続し、私たちの活動が、わずかでも優良農地の荒廃化の進行を防ぎ、地域の景観保護、環境保全の一助となることを願います。これからも守る会とともに活動を行なっていきたいと考えています。

# 安曇野の山葵を海外へ届ける！

安曇野市穂高で明治後期〜大正初期から代々、山葵を栽培・販売を行っている井口勝也さん（株式会社清澤）に山葵の海外輸出について話を聞きました。



JETRO長野のイベントで山葵田を案内する井口さん(右)

●プロフィール  
井口 勝也さん（58歳）  
株式会社清澤 代表取締役  
山葵農家を先代より引き継ぎ2015年3月3日法人化、現在本山葵の栽培、販売を行う。

## ◆JETRO長野をきっかけに

地元のJETRO長野のアドバイザーより、アドバイスを受け、2017年から海外輸出を始めました。現在はEU諸国（2020年1月より直接輸出を開始する）他、東南アジアなど出荷量全体の9割以上を海外輸出が占めております。

国内販売と海外販売の違いは、国内商談の場合、まず価格の話が先ですが、海外の場合はサンプルを使用して、品質にあった価格での評価をして頂けます。直接輸出の場合、バイヤーのすぐ後ろには使用されるお客様が居るのでフィードバックも頂けます。

## ◆輸出で苦労した経験

輸送コストを下げる為、中東経由（アブダビ・ドバイ経由）で輸出を試みましたが、現地の外気温が高いのでKeep Cool（冷蔵輸送）が保てなく、お客様の手に着いた時には腐らせてしまう結果に。現在は、輸送ルートを見直し、適正温度帯でお客様に届ける様になり喜んで頂けてます。

## ◆現在の状況

現在はキャパオーバーになりそうなので、営

業は積極的に行っておりませんが、販売先のお客様に円安による影響も考慮していただき、単価を上げてもらえるよう取り組んでいます。

## ◆最後に一言

海外取引は、英語が主言語のうえ、専門用語等の使用もあるため苦労することもあります。他の農家からの仕入れはせず、自分たちで丹精込めて作り上げた自慢の山葵を今後もPRしていきたいです。圃場見学に来日されたお客様には、山葵田に湧き出る地下水と北アルプスの関係の説明すると感激され、先日もWellcome dinerでは弊社の山葵を使った「信州サーモン」に舌鼓を打ち、その後温泉も堪能され、心も身体も満足してお帰り頂きました。今後はInstagramで山葵の販売以外でも、微力ながら信州安曇野の魅力も併せて発信できたらと思います。



山葵田の様子



独学で稲作を始めた丸山さん

# がんばる農業者

## 丸山 大樹さん (40歳) (豊科)

経営面積等

水稲 4畝

小麦 2.6畝

作業受託 2.7畝

野菜 5ア<sup>1</sup>

**Q** 農業を始めたまっかけは何ですか？

**A** 工業高校を卒業し、工業大学へ進学しましたが、祖父の認知症を機に実家へ戻り、独学で稲作を始めました。土地利用型農業は機械作業が多く、機械整備が好きな自分にピッタリの仕事だと思っています。

**Q** 農業経営を行う中で大変なのはどんなことですか？

**A** コスト削減のため農業機械はインターネットで中古品を探し、自分で整備して使っていますが、中古品は見つけた時が買い時ということもあり、補助金を申請する間がないことに困っています。ちなみに中古品は安ければ良いというわけではなく、新品の半額の値段で、大掛かりな修理を必要としないものを基準に揃えています。

**Q** 現在取り組んでいることを教えてください。

**A** 特に力を入れているのは赤米対策です。8年前に赤米の発生圃場で農協と除草剤の試験を行って以来、独自の赤米対策を行ってきました。前年まで荒れていた圃場が綺麗になると地主さんから喜ばれます。

**Q** 今後の目標を教えてください。

**A** 経営面積が増えるにつれて個人としての限界や、怪我や病気のリスクを感じるようになってきました。地区の若手農家と協力し合い、将来的には組織化を進めていきたいと考えています。



所有する農業機械



トラクターを整備する丸山さん

# がんばる農業者

**田中 彰さん** (40歳) (穂高)

経営面積等 経営面積2.5ヘクタール

花卉栽培

ダリア等、200品種



生花店から花卉農家へ転身した田中さん

**Q** 就農されたきっかけは？

**A** 以前は10年ほど東京で生花店の運営を主とする会社を経営していましたが、より花のことを知りたいと思い、縁あって安曇野で就農しました。



栽培しているエキナセア (左) とダリア (右)

**Q** 現在の栽培作物、主力品種は？

**A** ダリアやジニアなど、200品種を栽培（試作も合わせると250品種）しており、全国の市場に出荷しています。

**Q** 現在取り組んでいることは？

**A** 全国の市場出荷を中心に、オンラインや直売所での販売等で販路の拡大に取り組んでいます。また、今後、優秀な人材を確保できるように、組織・制度設計にも着手し始めました。

**Q** 農業経営で大変なことは？

**A** 自分自身の肉体を使う仕事が多いので、体調管理に気を付けています。また、選花の作業では小さなゴミや虫等を取り除く細かい作業のため、とても大変です。

**Q** 今後の目標、取り組みたいことは？

**A** 施設を持たない露地栽培のため、冬場は出荷ができず、周囲から心配されます。ですが、例えば、花を出荷するだけでなく、花を育てる過程を価値化し、栽培の失敗や成功をオンライン上で共有するなど、キャッシュポイントを増やす取り組みを行い、年間の定常的な売り上げ確保に取り組んでいます。

**Q** 週末限定で直売所をやられているとのことですが、はじめられたきっかけは？

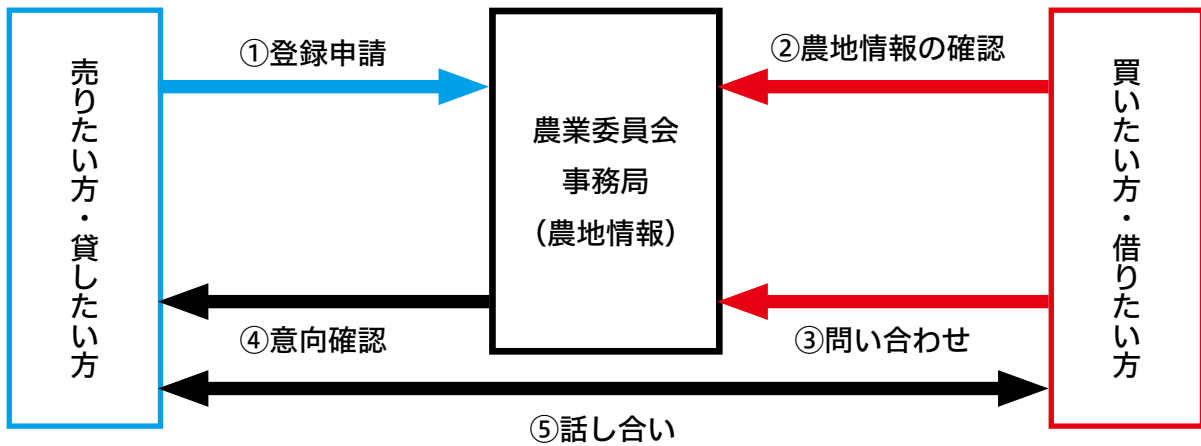
**A** 地元の方にも弊園で育てた花を見ていただきたいと思います、始めました。

# 農業委員会からのお知らせ

## 農地の売買、貸借情報を掲載します！

農業委員会では、農地の有効利用や遊休農地対策のため、『農地を売りたい、買いたい』または『貸したい、借りたい』等の情報を令和6年1月より市ホームページや農業委員会だよりに掲載します。

### 売買・貸借の流れ



- ①登録用紙に必要事項を記入し、農地情報を登録します。
  - ②農地情報は市ホームページや農業委員会だよりをご確認ください。
  - ③ご希望の農地がありましたら、農業委員会事務局にお問い合わせください。
  - ④お問い合わせのあった農地について、売りたい方・貸したい方に意向を確認します。
  - ⑤売りたい方、貸したい方が買いたい方、借りたい方とお話する意向があれば、双方に連絡先をお知らせしますので、条件等について話し合ってください。売買、貸借の条件が双方で折り合えば、契約手続きとなります。
- ※掲載する農地情報は登録申請があった農地のみとなります。
- ※農地を取得する際は、農地法第3条の許可要件を満たす必要があります。

ご不明な点につきましては、農業委員会事務局まで、お問い合わせください。

## 農地の貸借の仕組みが変更となりました

農地を貸借する場合、今までは次のいずれかの手続きが必要でした。

- ・ 農業経営基盤強化促進法に基づく相対による利用権設定（貸借）
- ・ 農地中間管理事業による利用権設定（貸借）
- ・ 農地法第3条に基づく貸借

※令和5年4月1日以降は下記のとおり、変更となりました

農業経営基盤強化促進法の一部改正により、令和5年4月1日から同法に基づく相対による利用権設定(貸し借り)は廃止され、農地中間管理事業による利用権設定に一本化されました。

**ただし、経過措置として令和6年度(令和7年3月31日)もしくは地域計画の策定の前日までは相対による利用権設定は可能です。**

また、すでに締結済みの利用権設定については設定期間満了まで有効です。

なお、農地法第3条に基づく農地の貸借については変更ありません。

## 5月に実施したドローンの水稲直播きのその後



R5.8.16 撮影



R5.9.15 撮影

農業委員会だより第35号で掲載しましたドローンによる水稲直播きを行った水田で9月20日～24日に稲刈りが行われました。収穫量は前年比105%（前年は播種機による直播き）という結果となりました。

### ◆ドローンの直播き栽培を終えて（市農業委員平川邦夫さん）

初めてのドローンによる直播き栽培でしたが、今年の収穫を無事に終えてほっとしています。直播き栽培は、通常の田植えと作業時期がズレており、初期の水管理に神経を使い、発芽後の鳥害（スズメ、カモ）も一時であったとはいえ、今までにはない気遣いがありました。日々管理する中で一番悩んだことは苗から稲に成長する過程が、一律ではないということ、また、ほ場ごとに状況が異なり稲の成長が違っていったことでした。この部分は一般の田植えではあまりになかったことでした。

今後、若い人による大規模経営における効率化といった面から新しい農業スタイルとしてドローンを活用した栽培は全国的に普及することだろうと思います。既に管内では個人的にも導入している農家もいますが、共同利用することで効率化と汎用性が期待できると思われます。

私のおすすめ

からみそ

堀金 小松定子さん

材料

- ・ 辛こしょう 好みにより適量 (200g)
- ・ 糀 500g
- ・ 醤油 600cc
- ・ 砂糖 330g

作り方

- ① 醤油の中へ糀を入れ、しばらくおく。
- ② 辛こしょうをミキサーで細かくする。
- ③ 全ての材料を合わせて煮つめる。

(約20分位)

※注意すること

辛こしょうを切るとき、種を取るときは手袋をして切らないと、辛くてむせるので、要注意です。



旬の一句・一首

一房の  
葡萄に光る

陽の匂い

豊科 古幡 菊子

ひとり居の  
心ふるはす

虎落笛

穂高 有明時雨

秋の空

故郷を偲ぶ

林檎園

三郷 中村 隆一

酷暑にも

耐えし実りの野菜たち

吾も負けじと

畑にいそしむ

堀金 青柳 松子

新酒酌む

掬破りて

五勺足し

明科 飯沼 比呂倫

編集後記

我が家の裏には、五力用水が流れていきます。明科の七貴から南陸郷の五つの地区を流れる五力用水は、江戸時代の終わりに造られました。雑穀や芋しか作れなかった地域が五力用水のおかげで、米を食べられる様になりました。

近所の農家が、来年から農作業を委託するそうです。一軒は機械が壊れ、一軒は高齢の為です。米作りを切望して五力用水を切り拓いた先祖たちが、200年後の今を想像できたでしょうか。そういう私も2年後、3年後の農業さえ想像できませんが、来年も又、五力用水の水を使って、米作りを続けます。

文責 岡山 きみ子

【農業委員会だより編集委員会】

編集委員長 笠原 哲雄

委員 岡山きみ子

中村 洋子

田口 博之

丸山 隆也

山田 太一

請地 康仁

藤原 光弘